

日銀の視点

7月3日に予定されている新しいお札（日本銀行券）の発行開始まで、いよいよ1カ月を切った。現行券の発行開始（2004年11月）から約20年ぶりの改刷である。

決済のキャッシュレス化が進展する下でも、現金への需要は根強く、誰でも、いつでも、どこでも、安心して使える現金は、引き続き、決済手段として大きな役割を果たしていると考えている。こうした中、新しいお札では、印刷技術の進歩等を踏まえつつ、

日銀水戸事務所長 上野 淳

1カ月切った新札発行

今後とも偽造抵抗力が確保されるよう、新たな偽造防止技術を追加している。具体的には、見る角度によって小さな肖像の向きが変わる「3Dホログラム」という技術をお札としては世界で初めて搭載する。

お札の顔も変わる。千円札は野口英世から北里柴三郎に、5千円札は樋口一葉から津田梅子に、それぞれ約20年ぶりに交代する。1万円札は、前回の改刷時は福沢諭吉が

めに弘道館などを訪れ、水戸への特別な思いを語っていた。北里は、水戸市出身の横綱・常陸山を大褒ひいきにしていたぞうだ。

「新しいお札を発行開始後なるべく早く手にしてみたい」と思っている方もいらっしゃるかもしれない。新しいお札は、7月3日以降、まず日銀から金融機関に支払われ、準備が整った金融機関から、順次、金融機関の窓口やATM等において入手可能となる。従って、新しいお札を入手できる日などのタイミングは、金融機関や店舗によ

るなどしている。また、どんなにも分かりやすい「ユニバーサルデザイン」とすることも意識している。具体的には、指で触って券種を識別できるマークをより分かりやすい形にした上でお札の種類ごとに位置を変えるなどしてい

「統投」したが、今回は渋沢栄一に、約40年ぶりに交代する。これらの人物と本県との関わりを紹介すると、渋沢は、水戸学に影響を受け、また、水戸藩第9代藩主徳川斉昭の子・慶喜（最後の将軍）に仕えた。76歳の時には講演のた

りばらつきが生じ得る点は、ご理解いただきたい。なお、日銀では、法令に基づき、汚染・損傷その他の理由により使用困難となったお札の引き換えは行っているが、両替や新しいお札への単純な交換は行っていない。

最後に、従来のお札は、新しいお札に交換しなくても、引き続き通用する。「従来のお札が使えなくなる」といった誤った情報や詐欺行為などには、くれぐれもご注意ください。新しいお札が本県の皆さまにも親しんでもらえるものとなることを願っています。

（次回は7月13日掲載）